

# アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No.150/2019年(令和元年)8月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第151号をお届けします.

# 【1】IJAWT2019開催報告

2種研海外開催であるIJAWT2019(Indonesia Japan Antennas and Wireless Technology Workshop)が7月29日~30日にインドネシアバンドンで開催されました。今回の開催は、インドネシアと日本の初めてのジョイントワークショップとしての開催でした。日本からの発表件数?件、インドネシアからの発表?件でした。インドネシアでは、10月にバリ島で2019IEEE CAMA (Conference on Antenna Measurement and Applications)も開催されるため、現地世話役の方々は、非常にお忙しい中での開催にもかかわらず、盛況で開催されました。国際委員会の皆様、インドネシア現地の方々に感謝いたします。なお詳細は、国際委員会から報告にゆだねることといたします。

#### 【1】MJWRT2019開催報告

MJWRT2019 (Maraysia Japan Workshop on Radio Technology)が、8月1日~2日マレーシアクアラルンプールにて開催されました。今回が3回目の開催であり、現地に滞在されているAP研顧問であり現在マレーシアMJIIT教授の山田先生、事務局の方々の多大なご尽力によりホスピタリティにも優れた国際会議として開催されました。キーノートスピーチは、University MalaysiaのKaharudin Dimyati教授、University Tunku Abdul RahmanのLim Eng Hock教授、黒川副委員長の3名、AP研顧問の新井教授のTutorial講演、Industrial speakerとして、深沢幹事、Altair EngineeringのMr. Lim Seng Tatの2名の講演が実施されました。26件の一般公演が行われ、日本からは6件の発表が行われました。現地のアクティビティの高さを感じることができました。次回は2年後の開催の予定です。なお詳細は、国際委員会から報告をご覧ください。

### 【2】 8月研究会報告

8月の研究会は、8月21日(水)~23日(金)に北海学園大学にて実施され、3日間で合計 2 4 件の発表がありました。AP研チュートリアル講演として、NTTの山田渉氏から「電波伝搬研究における標準化活動とその最新動向」というタイトルで発表いただきました。2020年から開始される 5Gサービスも見据えた標準化等の最新動向等に関連する講演が行われました。IEEE AP-S Tokyo Chapter 特別講演として海洋研究開発機構吉田弘氏からは、「海氷下ロボット測位のための超長波灯台システムの基礎研究」というたいとるで講演いただきました。現在、世界中で進む地球温暖化の現状やこれを見据えた海中通信などに関連する講演が行われました。現地世話役の笹森先生には、会場設営などを含め多大なご尽力をいただき、多くの参加者で開催することができましたことを感謝したいと思います。

#### 【3】 今後の開催案内

1種研としては、9月19日~20日JAXA宇宙科学研究所、10月17日~18日大阪大学にて開催されます。10月研究会では、初めての取り組みとして、学生と企業との交流イベントを17日(木)に開催予定です。企業、大学双方の方々にとって魅力のあるものとすることを目的としております。学生によるポスター発表(表彰があります)、企業および研究機関における取り組みの紹介を行います。交流会では、学生と企業が直接対話できます。申し込み締め切りは8月10日(厳守)です。多くの企業、学生の皆様の申し込みを期待しております。9月10~13日に大阪大学で開催されるソサイエティ大会はそろそろプログラムも公開されると思います。ふるってご参加お願いします。

#### 【4】 副委員長の戯言

7月末から8月初めにかけて、インドネシアでIAWT2019、マレーシアでMJWRT2019が開催され、多くのAP研関係者が参加されました。私は研究所の仕事の関係があり、MJWRT2019から参加しました。防衛大学校を退官された後にマレーシアMJIIT教授となられた山田吉英先生、MJWRT2019セクレタリのDr. Azura Hamzah氏をはじめとする現地の方々の多大な御尽力により、現地からの参加者、日本からの参加者で会場はほぼ満席となるほど活気に満ちた国際会議となりました。特にマレーシアでは、女性の先生が多く活躍されていたことが印象的でした。

北海学園大学で開催された研究会では、最近各研究分野の方々から注目を集めている海中の通信にフォーカスされた講演を聞くことが出来ました。海中での通信としては、従来から、音波を用いた通信、光を使った通信の研究が行われたようですが、、AP研の分野である電波を用いた通信に関心が集まっていることを感じることができました。海中通信の必要性は地球温暖化の抑制のための研究にも活用できる(必要?)ということでした。今後、多くの研究費が投じられることを期待したいと思います。

せっかくの機会なので、マレーシア空港からのアクセスなどお話ししたいと思います。マレーシア空港は、KLIAとKLIA2というターミナルがあり、KLIA2がLCCであるAir Asia専用のターミナルとなっているようで、最も新しく、お店も多いと聞いています。私は、KLIAターミナルに到着しました。空港から市内のKLセントラル駅へは、高速鉄道のような直行便KLIAエクスプレスで約30分で到着できて、とても便利でした。KLセントラルからは、地下鉄やモノレールで様々な場所にアクセスできて、東京都内と遜色ない鉄道網が発達していて、会場やホテルまで、間違えることなく到着できた方が多かったようです。(私は、利用する鉄道を間違えたり、乗車しようとした電車がトラブルで乗車できず、別の路線に乗り換えたりしたため、ホテルに到着するまで2時間以上かかってしまいました)。成田からクアラルンプールまでは、行き8時間弱、帰りが7時間弱で、ヨーロッパ各国や米国等に比べて短時間で到着できました。食事は、日本食に近い味付けも多く、また、南国らしく果物の種類も豊富でおいしかったです。

## 〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 黒川 悟 (AIST)

E-mail:ap\_ac-chair@mail.ieice.org (AP研執行部のメールアドレス)

AP-NET: AP研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はAP研HPにて

AP研HP: http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/

